

## 埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

「アナザーワールド」を見て

深谷市立上柴中学校 二年 小川原 由夏

主人公の若い会社員は、給料日に、所得税や住民税を差し引かれていることにうんざりしていた。「自分が稼いだ金を、全部自分で使って何が悪い！税金なんか、なくなってしまうといい...。」と思っていた。ある日、給料明細から、税の支払が、なくなると、大喜びだった。

税金のない世界 それは...。街は、荒れ放題になった。お金のない子供は、学校へ行けない。小学生でありながら、学校へ行くためのお金を稼がなくてはならない。年金制度もなくなり、年をとっても生活の心配をしなくてはならない。不安は募るばかりで、生きる希望も失ってしまう。警察も、有料化となり、治安も悪くなり、安心して暮らせることが、できなくなってしまう。税金がないと、全て自分に必要なことは、自分自身で支払わなくてはならない。

税金とは、国民が、みんなで負担している会費みたいな大切なものであることが、よく分かった。所得税、住民税、消費税...など、たくさんの税の種類がある。私はず、思いつく身近な税として、消費税がある。毎日の買い物の際に支払われる消費税であるが、私自身、品物の代金に、さらに5%の消費税をつけて払うと、何か余分に払ったような、高い買い物をしたような気がしていた。

「たばこ、軽油は地元で購入しましょう。」「愛車は、地元ナンバーで...。」という、看板を目にすることがあるが、これらの税は、地元の収入となり、道路設備など、地元の人たちのために、使われていることが分かった。

私は今、中二で、あと一年で義務教育九年間を修了する。この間、私たち一人一人のために、約八百万円ほどの教育費がかけられていることを知った。私たちが使っている教科書も、学校の施設も、みんな税金のおかげなのだ。

また、医療も不安なく受けられ、心豊かに充実した老後を暮らしたいと、誰もが願うことだと思う。そして、充実した福祉や、高度なサービスを受けようとするなら、それなりの負担をしなくてはならないのだ。福祉国、北欧スウェーデンでは、国民所得に対する税金の負担の割合が50%以上になっているという。今の日本において、少子化、高齢化社会へと変わりつつある中、将来を担う私たち若者世代の責任は重大であると思う。

意味のない税など、あるはずがない。問題は有意義な使い道だろう。

ビデオの最後に、女性キャスターが「どういう社会に、暮らしたいか、そのために、どの程度の負担を良しとするか、全ては、私たちの選択に託されています。今、日本と言う国のあり方・進むべき道を、改めて問い直す時期に、来ているのではないのでしょうか...。」という、言葉が、強く心に残った。